



2016年1月4日

アジアは多様過ぎて協働できない？

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部長 佐久間浩司

昨年末アブダビで、アラブ通貨基金に招かれて債券市場育成研修の講師を務めた。アラブ通貨基金とは、アラビア語とイスラム教を共通項とする中東・北アフリカの22カ国による、通貨安定のための機関だ。1977年に設立された歴史ある機関である。

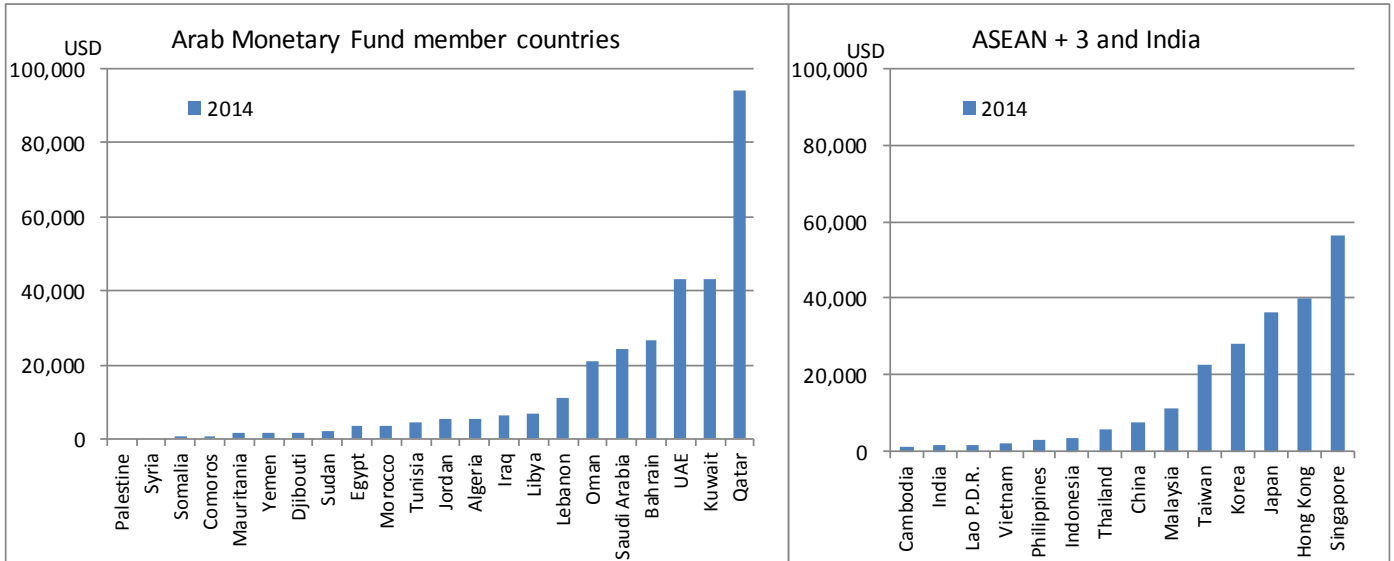
実際、彼らと会ってみると、共通項があるとはいえ22カ国は実に多様なのに驚かされる。豊かさで見れば、カタールのように1人当たり所得が10万ドルという世界でもトップクラスの国もあれば、ソマリアのように推計300ドル以下の国もある。この格差はアジアの比ではない。

社会の姿もいろいろだ。中東と一口で言っても、サウジアラビア、カタール、UAEのような石油やガスの豊かな国と、シリア、ヨルダン、レバノンなどの紛争多発地域では様子が大きく違う。北アフリカと一口に言っても、アルジェリアのようなフランス語が通じる国もあればエジプトのように英語が通じる国もある。チュニジアやモロッコのように比較的EUと緊密なコミュニケーションのある国もある。顔つきも違う。アルジェリアの参加者は物静かなヨーロッパの初老の紳士といった風貌があり、スーダンやモーリタニアからの参加者は、日本人が一般にイメージするいわゆる黒人である。金融リテラシーの水準にも相当開きがある。モロッコやチュニジアは、EUのカウンターパートとの接触が多いせいか、他のメンバーよりも一段も二段も上だ。

多様という柔な言葉では表しきれない面もある。サウジアラビアはイエメンを武力攻撃中である。湾岸諸国はシリアの現アサド政権と敵対している。そのせいか、今回はイエメンとシリアの参加はなかった。

宗教が同じというのが連帯の上で大きいのではないかと思われるかもしれない。しかし、同じイスラム教でも、実際の社会でどこまで宗教的な原理にこだわるかは大きく違う。研修の中で、ある時こちらは普通に金融の話をしていたつもりだったが、何を踏み外したか、ある参加者からきつい調子でイスラム金融では違うという反論があった。反論の主旨が分からなかったので聞き返そうとしたところ、他の年配の参加者がさっと割り入って、年の功で対応してその場を収めてくれた。それを見た別の者が「気にせずそのまま進めてくれ」というウインクを私に向けてくれた。

1人当たり所得水準 GDP per capita



(Source) IMF, CIA

彼らとの数日間を過ごして感じたのは、こんなに多様な国でよく通貨基金という組織を立ち上げたということだ。そして、アジアのことを考えた。アジアの地域連携は、経済面でも民族面でも多様過ぎて困難だというのは本当だろうかと思ったのである。さすがに共通通貨は無理だと思う。しかし、もっと積極的にアジア独自の連携や協働を進めていってもいい。EUという先行事例にとらわれ過ぎてないだろうか。1997年のアジア危機以降、CMIM、ABMI、CGIF、AMROなど、既に多くの協働の枠組みが開始された。この流れが停滞することなく続いてほしいと切に願う。2016年はAIIBが本格稼働する年になる。今更この流れは変えられないが、アジアの連携がここでバラバラに崩れてはならない。一層の発展に繋がるような知恵が必要だ。

当然ながら、知恵をださなければならないのは、経済的にも政治的にもアジアの大国である日中韓であろう。国際通貨研究所でも、来月25日に日中韓3国の関係を幅広いテーマで議論する国際シンポジウムを開く予定だ（近日中に案内予定）。この3国間に起こる新しい展開を、今年こそ期待したい。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。